

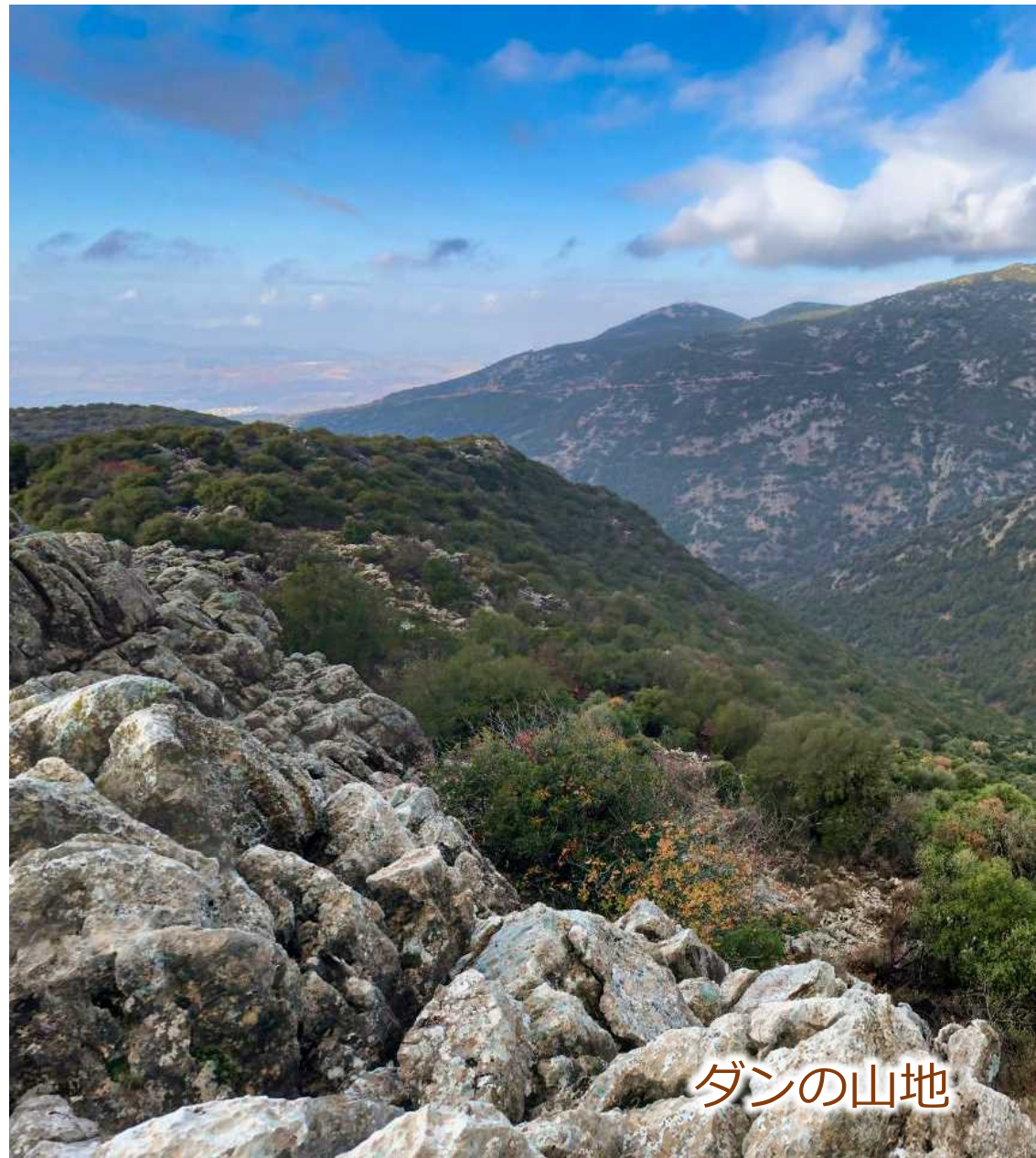
9
士師
聖徒伝 75

「背きと欺きの偽りの道」

士師記17～18章 偶像を巡る争い

【今日のアウトライン】

- 0. イントロダクション
- I. ミカの偶像 18章
- II. ダン族の移動 19章
- III. まとめと適用
 - 実を結ぶ信仰者となるために



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

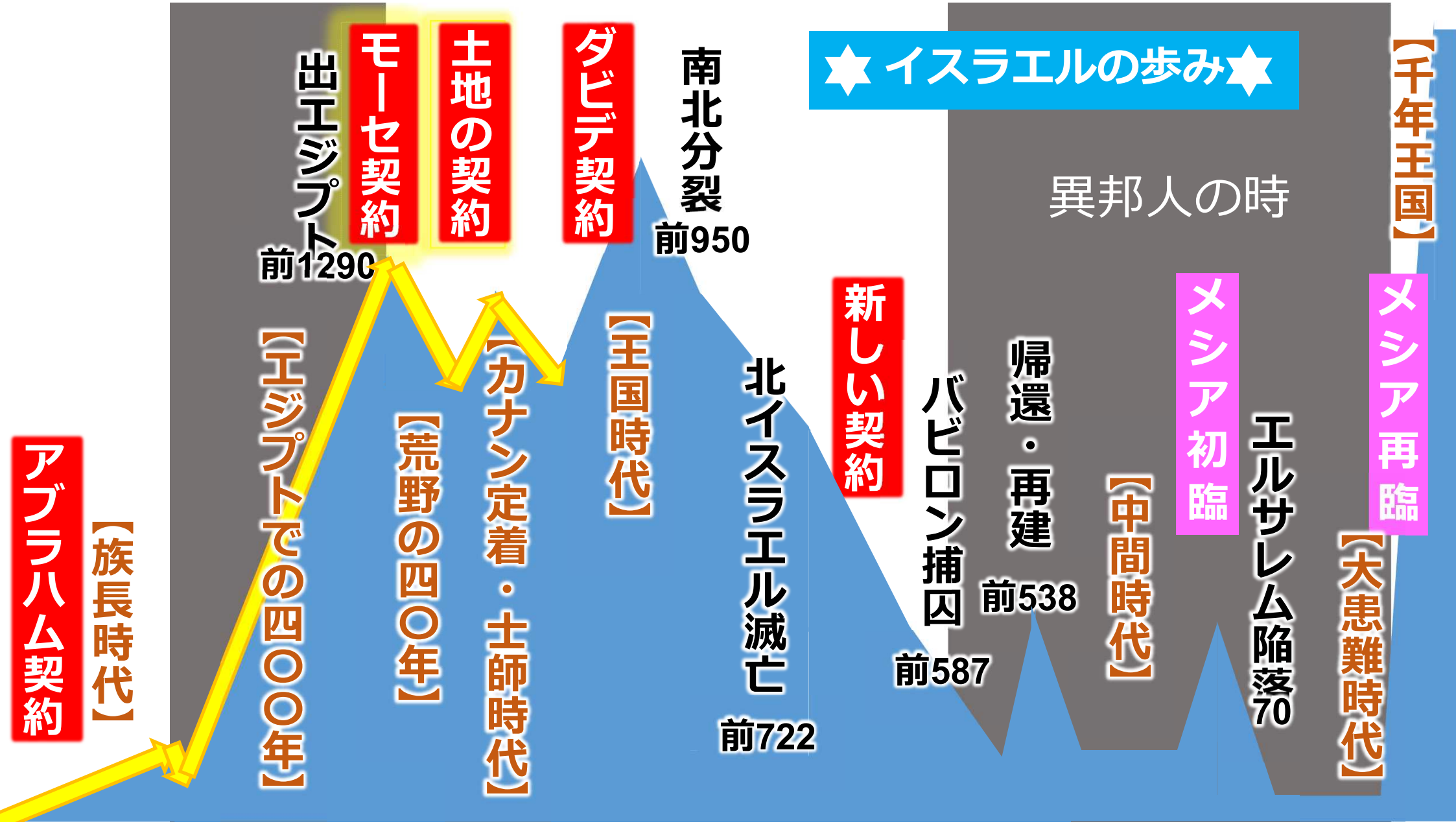
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



【士師の時代・残された土地】

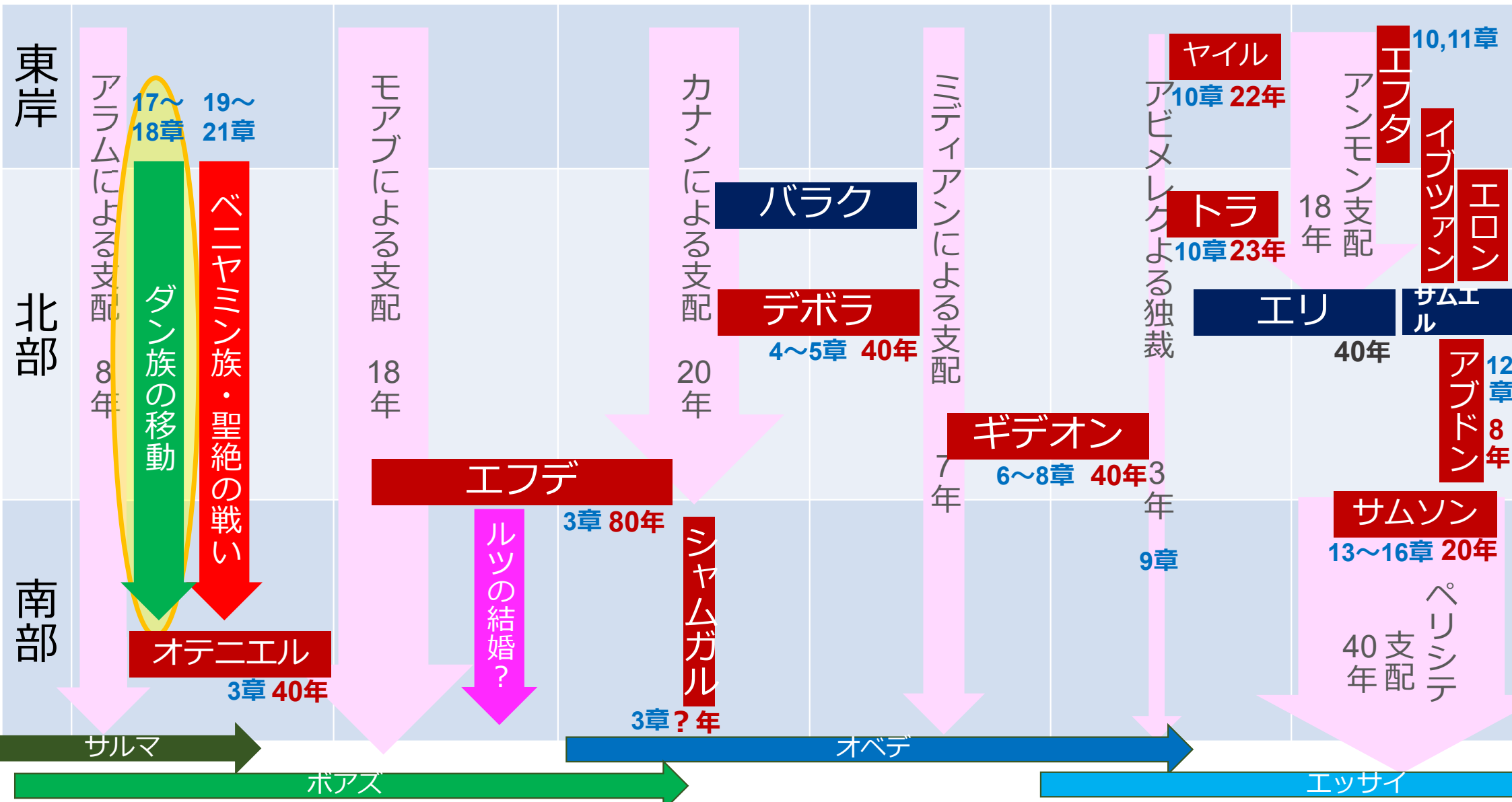
- ヨシュアに率いられたイスラエルは、12部族それぞれの相続地を手に入れた。
- しかし、未征服の地がまだ多く残っていた。
- カナン人の町が要所にあり、周囲にも、強力な民族がいて、イスラエルを脅かしていた。
- イスラエルが背教し、異民族に苦しめられ、悔い改めて主に助けを求めると、主は、士師を立て、敵を撃退された。
- 士師は、あくまで一部族のリーダー。
全イスラエルを治める王は、まだいなかった。



【士師の時代】

BC1200

BC1100



【特異な士師記17~21章】

- 時代は、**士師記の初期**。ヨシュアの死後。
...祭司ピネハスの時代(士師20:28)
- 書かれたのは、サウル王以降？
...「イスラエルに王はなく(士師17:6)」
- さらに言うと**北王国滅亡後**？
...ダン族の捕囚について言及(士師18:30)
- 誰が書いた？
...南王国の預言者による警告？(三浦説)

**王なき時代の最悪の出来事を、
滅亡直前の南王国への警告として付記した？**



【士師記17~21章の最大のテーマ】

「そのころ、イスラエルには王がなく、
それぞれが自分の目に良いと見えることを
行っていた。士師記 17:6 ,21:25」

- 後に、背教を重ねたイスラエルは王を失い、
以来、王なき時代が続いている。
- 私たちもまた、王なき時代の終わりにいる。
- 世界の混沌は、ますます深まっていくだろう。
真実の王、再臨の主イエスが来られるまで。



ヘルモン山の麓



I. ミカの偶像

士師記17章

エフライムの山地

【エフライムのミカ】 士師17:1～4

エフライムの山地の出で、その名をミカ*という人がいた。

* **ミカヤ** ...“誰が神のようであろうか”

- ミカは、銀千百枚の大金を盗んだと母に告白。
- 母は主の名によって息子を祝福し、主に献げたその銀で彫像と鑄像を造る予定だったと告げる。
- 母は息子に銀を返し、息子は母に戻した。母は銀二百枚で、彫像と鑄像を造らせた。

歪んだ母子関係、歪んだ信仰、歪んだ礼拝。



【ミカの神の宮】 士師17:5～6

このミカという人には神の宮があった。彼はエポデ*とテラフィム*を作り、その息子の一人を任命して、自分の祭司としていた。

そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。

* 律法が定めた祭司の祭服。

➡ 正統な祭司は、レビ族のアロンの家系のみ。
祭司を任命するのは、神の権限!!

* 偶像。財産権を示した(創31:19)

■ 地に墜ちた律法の権威。背きを重ねる民。



テラフィム



エポデ

【レビ人の若者】 士師17:7

ユダのベツレヘム出身*で、ユダの氏族に属する一人の若者がいた。彼はレビ人で、そこに寄留していた。

* **ベツレヘム** ...律法が定めた**レビ人**の町ではない。

➡自分の町を征服できず、寄留するレビ人の存在。

■ 旅してきたレビ人を、ミカは雇い入れ、エポデを着させ、息子同然とし、自分の祭司とした。

17:13 「今、私は、【主】が私を幸せにしてくださることを知った。レビ人が私の祭司になったのだから」

■ どこまでも利己的で自分本位なミカの信仰

➡**欲望が叶ったことを喜ぶだけなら神はいらない!!**





Ⅱ. ダン族の移動

士師記18章

ヘルモン山の南麓

【ダン族からの偵察隊】 士師18:1～2

そのころ、イスラエルには王がいなかった。

ダン部族は、自分たちが住む相続地を求めている。イスラエルの諸部族の中であって、その時まで彼らには相続地が割り当てられていなかった*からであった。

* 強敵に阻まれ、手にしたのは山地の一部のみ。

➡ 早々と相続地の獲得を諦めてしまった？

■ ダン族が派遣した5人の偵察隊がやってきて、エフライムのミカの家泊まった。



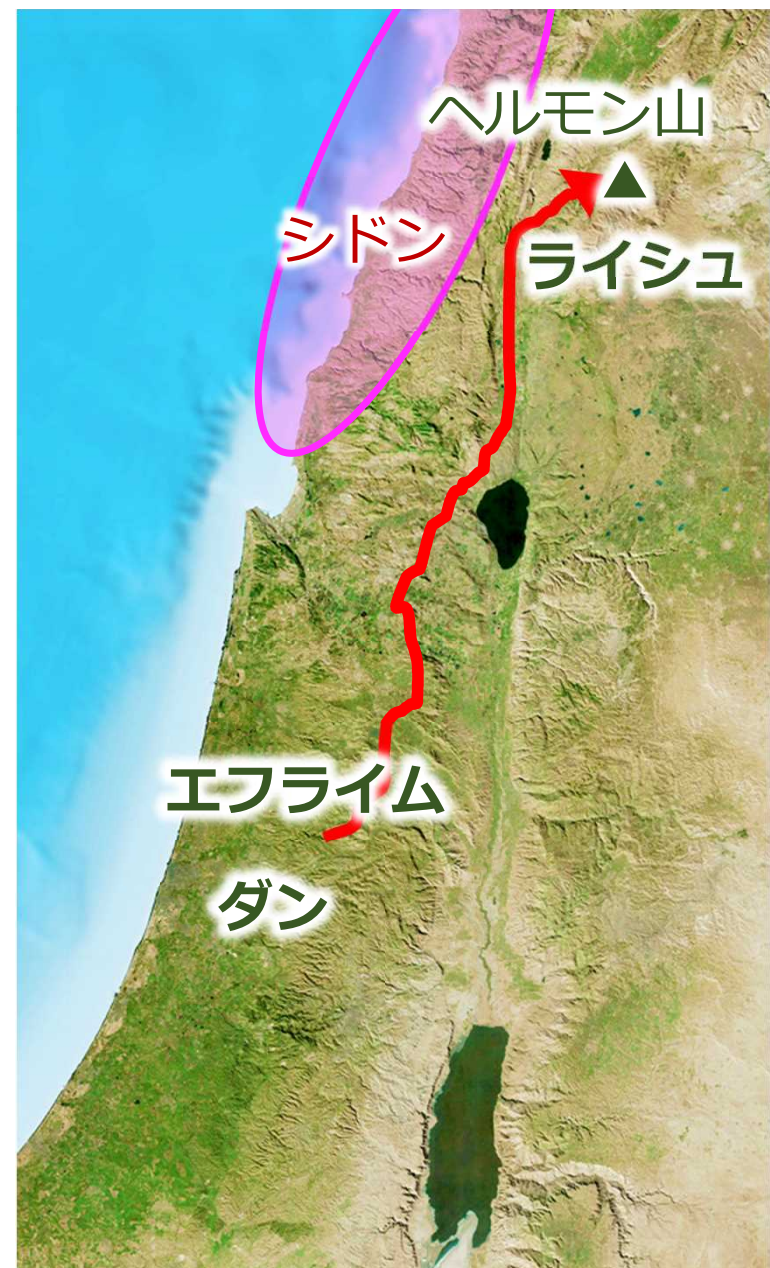
【シドン人のライシュ】 士師18:3

- ダンの偵察隊は、ミカの祭司に素性を聞き、旅の成功を、主にとりなすよう求めた。偽祭司は、主が旅を認めていると宣言した。

18:7 五人の者たちは進んで行って**ライシュ**に着き、そこの住民が安らかに住んでいて、シドン人*の慣わしにしたがい、平穏で安心しきっているのを見た。この地には足りないものは何もなく、彼らを抑えつける者もいなかった。彼らはシドン人から遠く離れていて、そのうえ、だれとも交渉がなかった。

- 偵察隊が目をつけたのは最北の町だった。

*シドン人は、北方の強力な民族。



【攻め上るダン族】 士師18:9~13

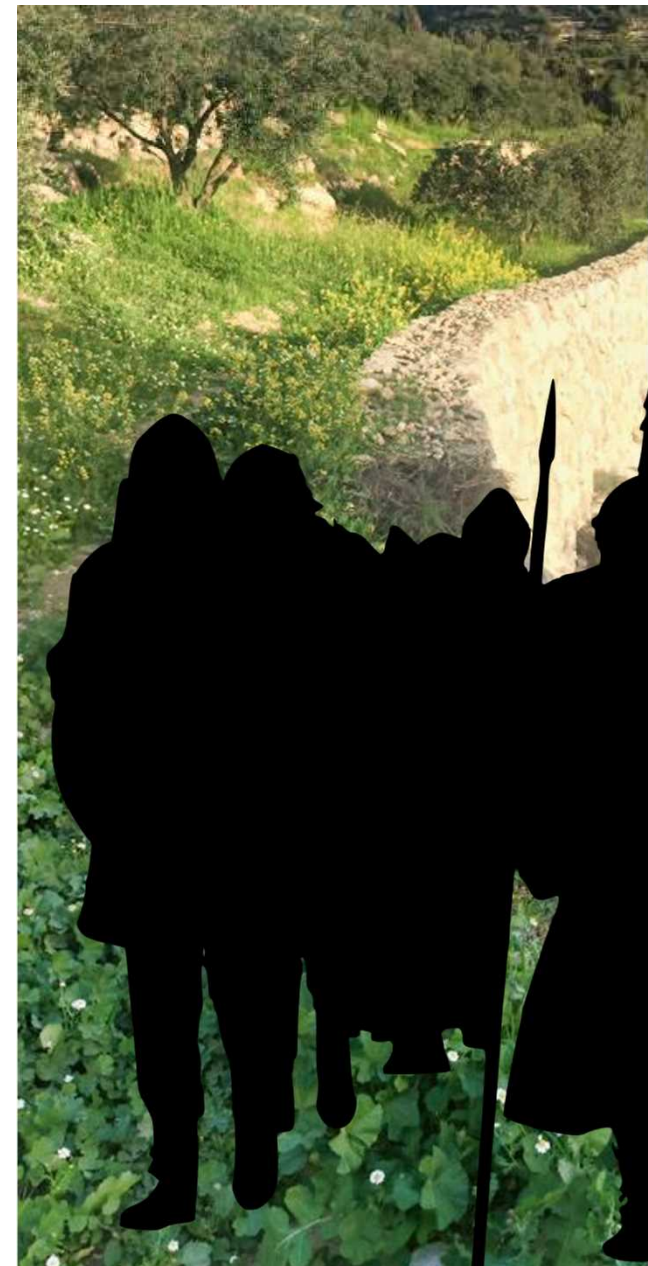
彼らは言った。「さあ、彼らに向かって攻め上ろう。私たちはその土地を見たが、実にすばらしい。あなたがたはためらっているが、ぐずぐずせずに進んで行って、あの地を占領しよう。あなたがたが行くときは、安心してきった民のところに行けるのだ。しかもその地は広々としている。神はそれをあなたがたの手に渡してくださった。その場所には、地にあるもので欠けているものは何もない。」

- 武装したダンの六百人が出発し、ミカの家に着いた。
- 途中宿営したキルヤテ・エアリアには、マハテ・ダン(ダンの宿営地)と名づけられた。



【偶像と偽祭司の強奪】 士師18:14～

- ダン族は、まずミカの祭司に使いを送った。兵600人は門の前にいた。あの5人が来て、ミカの彫像とエポデとテラフィムと鑄像を奪い取った。
- とがめた偽祭司に彼らは言った。
「黙っていなさい。手を口に当てて、私たちと一緒に来て、私たちのために父となり、また祭司となりなさい。あなたは一人の人の、家の祭司となるのと、イスラエルで部族また氏族の祭司となるのと、どちらがよいのか。」
- 偽祭司は心躍らせ、一行に加わった。
18:21 彼らは向きを変え、子ども、家畜、家財を先頭にして進んで行った。☞ **総勢数千名**



【略奪と脅迫】 士師18:22～26

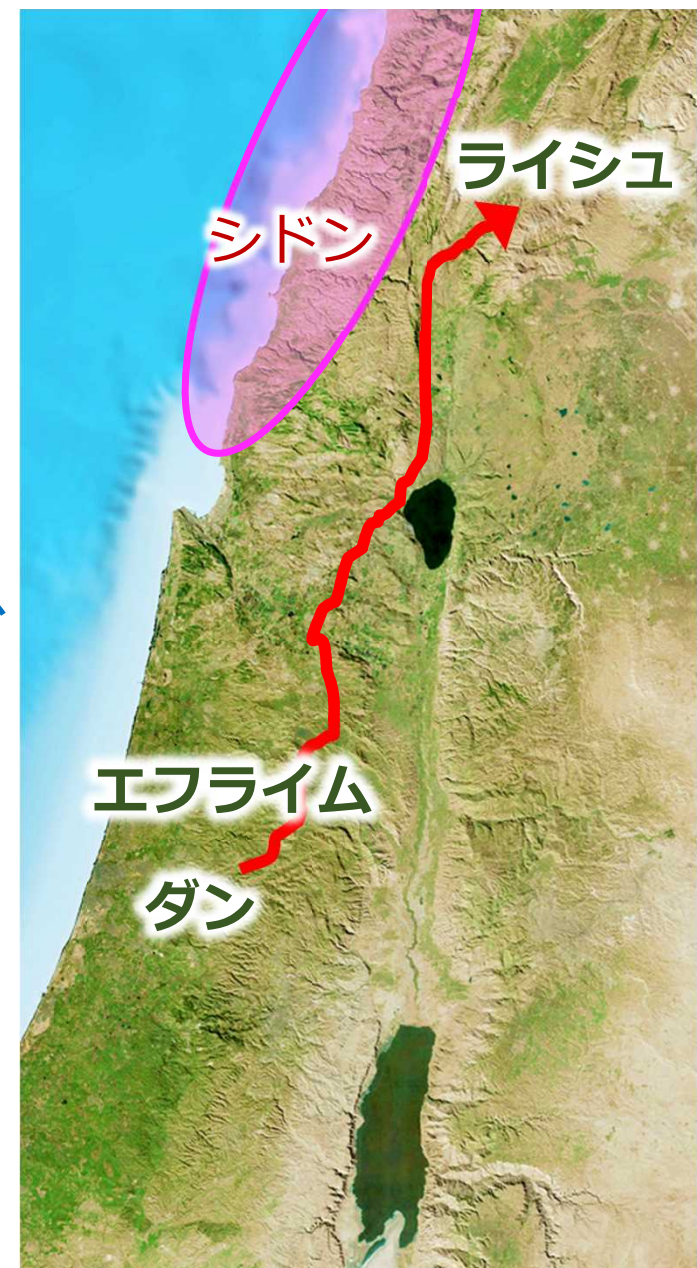
- ようやく追いついたミカに、ダン族は言った。「あなたはどうしたのだ。人を集めたりして。」ミカは言った。「あなたがたは、私が造った神々と、それに祭司を奪って行きました。私のところには何が残っているでしょうか。私に向かって『どうしたのだ』と言うとは、いったい何事です。」
ダン族はミカに言った。「あなたの声が私たちの中で聞こえないようにしなさい。そうしないと、気の荒い連中があなたがたに討ちかかり、あなたは、自分のいのちも、家族のいのちも失うだろう。」
- ダン族は去り、ミカは断念して引き返した。
➡ミカの幸せは、偶像と偽祭司とともに去った。



【ライシュの虐殺】 士師18:27～28

彼らは、ミカが造った物とミカの祭司とを奪い、**ライシュ**に行き、平穏で安心して居る民を襲い、剣の刃で彼らを討って、火でその町を焼いた。だれも救い出す者はいなかった。その町はシドンから遠く離れていて、そのうえ、だれとも交渉がなかったからである。その町はベテ・レホブの近くの平地にあった。彼らは町を建てて、そこに住んだ。

- ダンは、ライシュを絶滅させ、最北の地に自分たちの町を建てた。



【土地の命名】 士師18:29～31

彼らは、イスラエルに生まれた自分たちの先祖ダンの名にちなんで、その町にダン*という名をつけた。しかし、その町の名は、もともとライシュ*であった。

*“裁く”の意味。

*“雄獅子”の意味。

■ モーセが告げたダン族の預言。

申33:22 ダンについては、こう言った。

「ダンは獅子の子。バシャンから躍り出る。」

■ 自らの裁きによって土地を得たダン族。

背後にある主の働きを受け取っていたなら、ライシュの名こそ、ふさわしいと気づいただろう。



【ダン族の偽祭司の系譜】 士師18:30～31

さて、ダン族は自分たちのために彫像*を立てた。
モーセの子ゲルシヨムの子ヨナタンとその子孫*が、
その地の捕囚のときまで、ダン部族の祭司であった。
こうして、神の宮がシロにあった間中、彼らはミカ
の造った彫像を自分たちのために立てていた。

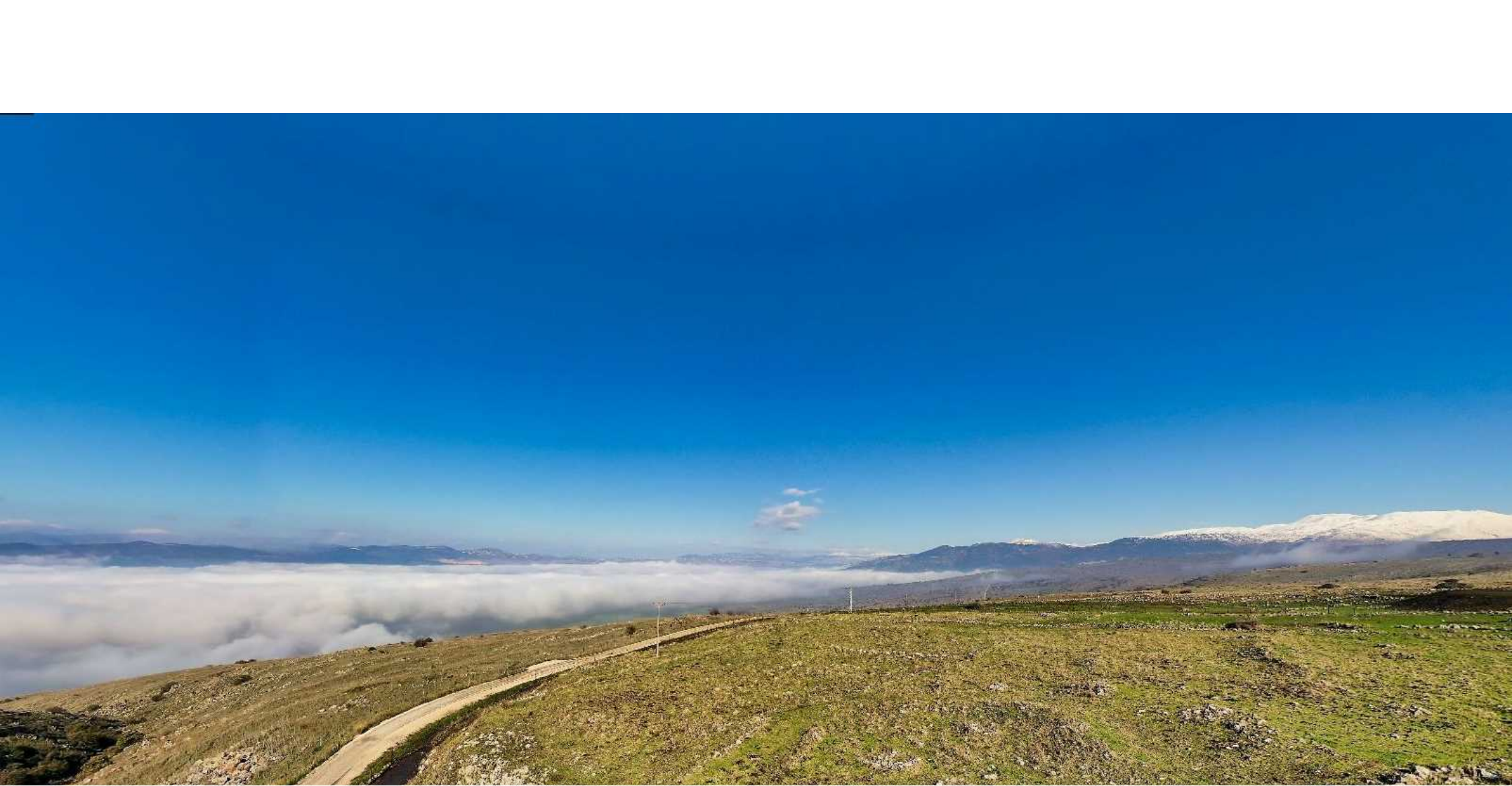
* ミカから奪い取った彫像。

* レビ人ゲルシヨン氏族の役割は、幕屋の運搬。

■ ダン族は、シロにあった神の幕屋をないがしろに。

■ ダン族の偽祭司の系譜は、北王国が滅亡する
アッシリア捕囚まで続いていく...





Ⅲ. まとめと適用

実を結ぶ信仰者となるために

ヘルモン山と雲海

【ダン族の歴史に学ぼう】

- ヤコブの第5子・ラケルの女奴隷ビルハの子。ダンは“裁く”の意味。
- ヤコブの預言
創49:17 ダンは**道**の傍らの蛇となれ。通りのわきのまむしとなれ。
彼が馬のかかとをかむと、乗り手はうしろに落ちる。
- 当初の相続地は、強敵に阻まれて獲得を断念。
- ライシュを絶滅させ、移住。残った少数の子孫が、士師サムソン。
- 重要な**通商路**が通っており、これをおさえることで栄えた。
- 偽祭司の系譜が続き、北王国の時代には、金の子牛が設置された。
- アッシリア捕囚によって、北王国は滅亡。(サマリア陥落 BC722)
多くのダン族も、強制移住政策により異教の地に捕らえ移された。

【ダン族の歩みにも見る神の許容的御心】

- 主から最初に与えられた相続地の獲得を早々と断念。
- 偽祭司の偽預言を都合良く解釈し、最北のライシュを侵略した。

- モーセが告げたダン族の預言。
申33:22 「ダンは獅子の子。バシャンから躍り出る。」
- バシャン(ゴラン高原)の北、ライシュ(雄獅子の意味)にダンが住むようになることを、主は知っておられた。
- 主に背いたダン族は、結局、主の意図していた通りの道を歩んだ。

- 17～18章を記したのは、ダン族の末裔の預言者かもしれない。
ダン族は、後の時代に痛みをもって主の約束を味わい知らされた。

【ミカとダン族の罪を反面教師に教えられること】

- ことあるごとに主の名を口にするミカ、そしてダン族。
 - しかし、幕屋で礼拝することはなく、律法も全く守らない。
 - 自分の欲望や願望を、自分の立てた祭司に言わせているだけ。

 - 彼らが**神としているのは、自分自身**に他ならない。
偶像礼拝の究極の形がそこにある。

 - 御心を求めると言いながら、自分の満足だけを追いかけていないか。
 - 御言葉を極めて都合良く、自分のために解釈していないか。
- ➔ **聖書の求める信仰は、主の命令に従うものでなければ意味がない。**

【主イエスの警告に心をとめよう】 マタイ7:21~23

わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、**天におられるわたしの父のみこころを行う者**が入るのです。その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』

- 人はただ福音を信じて救われる。そして、聖書が当然に求めるのは、信仰は必ず、行いという実になって現れるということ。
 - ➡ 私の言動は、信仰と一致しているだろうか、常に問われる。

【真実に信仰者として歩むために】

- 第一に聖書を文脈に沿って学び、正しい理解を深めていくこと。
真の著者である神の意図は何か？ 常に自分に問い続けよう。
➡神の律法を離れたことが、ミカとダンの墮落の最大の要因。
- 知識は、経験に裏打ちされて、はじめて私の血肉となる。
適用のない学びは、実を結ばない苗。
- 福音を告げよう。自らの現実を見据えて、欠けを主に委ねよう。
なすべき具体的な行動が、必ず示される。怠らず実践に移そう。
- 学びと実践、日々の小さな繰り返しの中で、信仰は育まれる。
日毎のデボーションを大切にしよう。学びを生きたものとしよう。

今日、私は何を行い、何を行えなかっただろうか。問い続けよう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主(しゅ)よと 祈(いの)りつつ、自分(じぶん)の思(おも)いを
第一(だいいち)にしていることがないかと 問(と)われます。

いつでも御言葉(みことば)に心を傾(かたむ)け、
主に聴(き)き従(したが)うことが できますように。

行いの実を 結(むす)ぶ者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」